

**がん検診の受診者数と
クーポン券の効果に関するアンケート
集計報告書
(2013 年度版／中間報告)**

2013 年 7 月

I 調査概要

調査目的 : 2009年度から、乳がんと子宮頸がんについて無料クーポン券とがん検診手帳が配布されている。クーポン券導入初年度は受診率向上に効果があったという結果が出ていたが、2年目になるとその上昇率に陰りが見えていた。昨年度はどうだったのか。また、2011年からは大腸がんについてもクーポン券が配布され、導入初年度は受診者数も大幅な伸びを見せていたが、2年目はどうだったのか、その推移を定量的に把握するために、全国支部を対象に受診者数を聴取した。

調査対象 : 全国46の日本対がん協会グループ各支部・提携団体

調査期間 : 2013年6月

調査方法 : 郵送によるアンケート調査

回収数 : 31件（回収率：67.4%…2013.7.2時点）

※この調査は、設問によってデータを保有しているか否か各支部で異なるため、設問ごとに有効回答数（n＝対象支部数）を記載している。

Ⅱ 集計結果 ～ 受診者数の推移（全体・受注自治体限定）

■過去3年間のがん検診受診者数の推移（n=31）

	2010年度	2011年度	2012年度
肺がん	2,024,061	1,938,124	1,980,726
胃がん	1,512,137	1,455,343	1,440,111
大腸がん	1,432,347	1,498,317	1,530,766
乳がん	854,776	855,131	789,789
子宮頸がん	1,025,907	987,915	970,460

前年度比

	2011年度	2012年度
肺がん	0.96	1.02
胃がん	0.96	0.99
大腸がん	1.05	1.02
乳がん	1.00	0.92
子宮頸がん	0.96	0.98

※肺がんと大腸がんは微増、乳がんの減少幅が大きい。

■乳がん検診・子宮頸がん検診・大腸がん検診(男女別)の受診者数の推移（3年間継続受注自治体に限定）

	2010年度	2011年度	2012年度
乳がん	776,199	781,710	723,246 (n=30)
子宮頸がん	923,529	894,006	876,299 (n=29)
大腸がん (男性)	397,508	428,864	426,813 (n=26)
大腸がん (女性)	573,368	605,912	611,896 (n=26)

前年度比

	2011年度	2012年度
乳がん	1.01	0.93
子宮頸がん	0.97	0.98
大腸がん (男性)	1.08	1.00
大腸がん (女性)	1.06	1.01

※3年間継続して受注している自治体を対象に、すべての年齢における受診者数の推移を見たもの。

※昨年度は大腸がん検診の受診者数が大きく増加したが、今年度は増加率が下がっている。

※乳がん・子宮頸がんも減少している。

Ⅱ 集計結果 ～ 受診者数の推移（クーポン券対象年齢限定）

■乳がん・子宮頸がん・大腸がん(男女別)の年齢別受診者数の推移（年齢別受診者数の記載があった支部に限定）

■年齢別の受診者数の推移

乳がん	2010年度	2011年度	2012年度
40歳	23,809	24,050	24,114
45歳	21,373	19,358	17,573
50歳	20,285	19,870	19,177
55歳	25,060	22,728	21,198
60歳	38,154	36,322	32,519
合計	128,681	122,328	114,581

前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	1.01	1.00
45歳	0.91	0.91
50歳	0.98	0.97
55歳	0.91	0.93
60歳	0.95	0.90
合計	0.95	0.94

※2012年度は、前年に比べ、40歳以外の年齢で減少していた。45歳は2年続けて前年度比-9%、60歳も今年は-10%だった。

子宮頸がん	2010年度	2011年度	2012年度
20歳	5,581	4,863	5,144
25歳	11,722	9,377	9,219
30歳	17,557	14,028	15,481
35歳	24,680	20,702	19,971
40歳	26,579	25,433	26,188
合計	86,119	74,403	76,003

前年度比

	2011年度	2012年度
20歳	0.87	1.06
25歳	0.80	0.98
30歳	0.80	1.10
35歳	0.84	0.96
40歳	0.96	1.03
合計	0.86	1.02

※2011年度はすべての年齢で前年度に比べて減少していたが、2012年度は20、30、40歳で増加していた。

大腸がん(男性)	2010年度	2011年度	2012年度
40歳	2,111	5,057	5,323
45歳	2,256	4,258	3,899
50歳	2,787	5,062	4,664
55歳	4,218	6,526	5,968
60歳	9,247	14,043	12,009
合計	20,619	34,946	31,863

前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	2.40	1.05
45歳	1.89	0.92
50歳	1.82	0.92
55歳	1.55	0.91
60歳	1.52	0.86
合計	1.69	0.91

※無料クーポンが導入された2011年度はすべての年齢で増えたが、2012年度は40歳以外で減少した。

大腸がん(女性)	2010年度	2011年度	2012年度
40歳	4,713	10,309	11,613
45歳	5,008	8,661	8,164
50歳	6,214	10,241	10,259
55歳	9,507	13,782	13,092
60歳	18,367	24,130	21,979
合計	43,809	67,123	65,107

前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	2.19	1.13
45歳	1.73	0.94
50歳	1.65	1.00
55歳	1.45	0.95
60歳	1.31	0.91
合計	1.53	0.97

※女性も男性同様、2011年度はすべての年齢で増えたが、2012年度は40歳と50歳以外は減少していた。

Ⅱ 集計結果 ～ 受診者数の推移（クーポン券対象年齢・初回受診限定）

■乳がん・子宮頸がん・大腸がん(男女別)の年齢別・初回受診者数の推移（年齢別・初回受診者数の記載があった支部に限定）

■年齢別の受診者数の推移

乳がん	2010年度	2011年度	2012年度	(n=19)
40歳	13,402	12,812	12,716	
45歳	8,674	7,520	6,507	
50歳	7,920	6,960	6,540	
55歳	9,432	7,939	7,223	
60歳	13,497	11,566	10,199	
合計	52,925	46,797	43,185	

前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	0.96	0.99
45歳	0.87	0.87
50歳	0.88	0.94
55歳	0.84	0.91
60歳	0.86	0.88
合計	0.88	0.92

※すべての年齢で2年連続して減少していた。中でも減少率が大いなのは45歳と60歳で-10%以上の減少率だった。

子宮頸がん	2010年度	2011年度	2012年度	(n=18)
20歳	4,883	4,107	4,422	
25歳	9,330	7,137	6,925	
30歳	12,347	10,055	10,347	
35歳	14,341	11,283	10,757	
40歳	13,277	12,002	12,138	
合計	54,178	44,584	44,589	

前年度比

	2011年度	2012年度
20歳	0.84	1.08
25歳	0.76	0.97
30歳	0.81	1.03
35歳	0.79	0.95
40歳	0.90	1.01
合計	0.82	1.00

※2011年度はすべての年齢層において減少していたが、2012年度は減少率も下がり、20、30、40歳は増加していた。

大腸がん(男性)	2010年度	2011年度	2012年度	(n=19)
40歳	1,144	3,737	3,894	
45歳	751	2,463	2,143	
50歳	792	2,544	2,258	
55歳	1,043	2,934	2,537	
60歳	2,692	6,317	5,217	
合計	6,422	17,995	16,049	

前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	3.27	1.04
45歳	3.28	0.87
50歳	3.21	0.89
55歳	2.81	0.86
60歳	2.35	0.83
合計	2.80	0.89

※2011年度はすべての年齢で2～3倍と大きく増加したが、2012年度は伸びが弱く、40歳以外は減少していた。

大腸がん(女性)	2010年度	2011年度	2012年度	(n=19)
40歳	2,521	7,259	8,295	
45歳	1,422	4,561	4,198	
50歳	1,596	4,649	4,732	
55歳	2,156	5,463	5,165	
60歳	4,080	8,490	7,714	
合計	11,775	30,422	30,104	

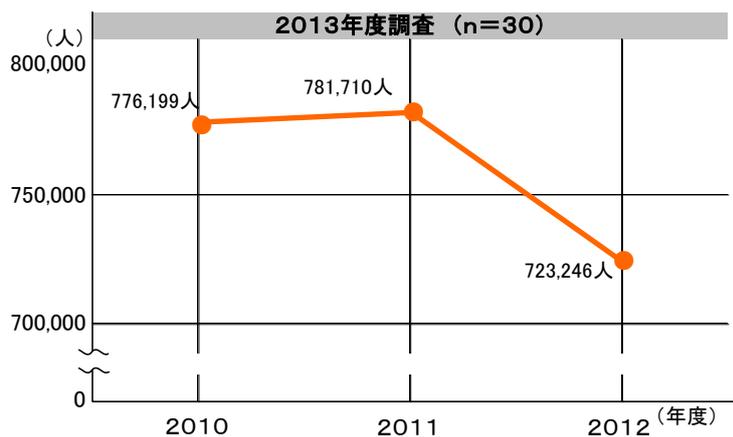
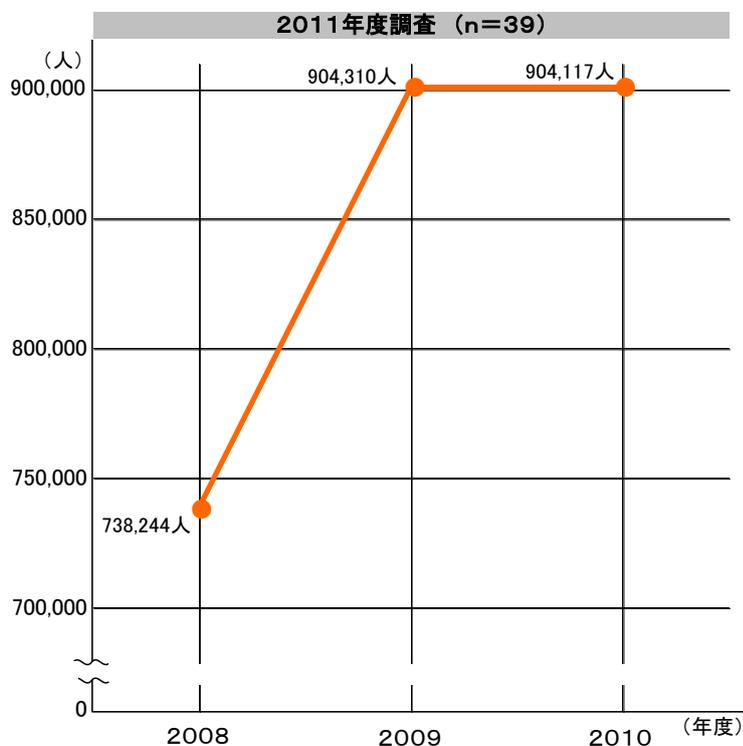
前年度比

	2011年度	2012年度
40歳	2.88	1.14
45歳	3.21	0.92
50歳	2.91	1.02
55歳	2.53	0.95
60歳	2.08	0.91
合計	2.58	0.99

※男性同様、2012年度は2011年度ほどの伸びは見られず、40、50歳以外は減少していた。

Ⅲ 無料クーポン導入以降の受診者数の推移 ①

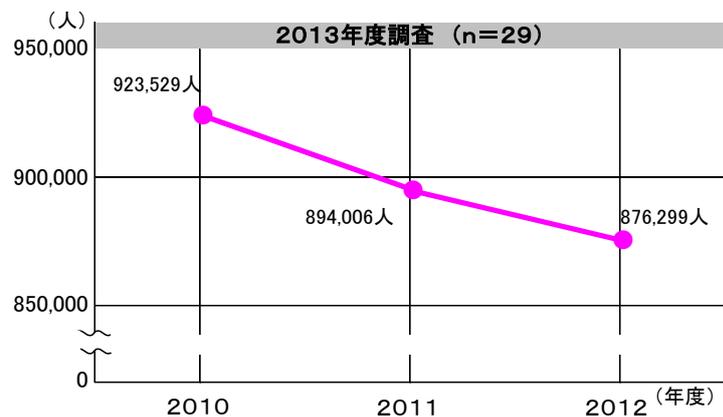
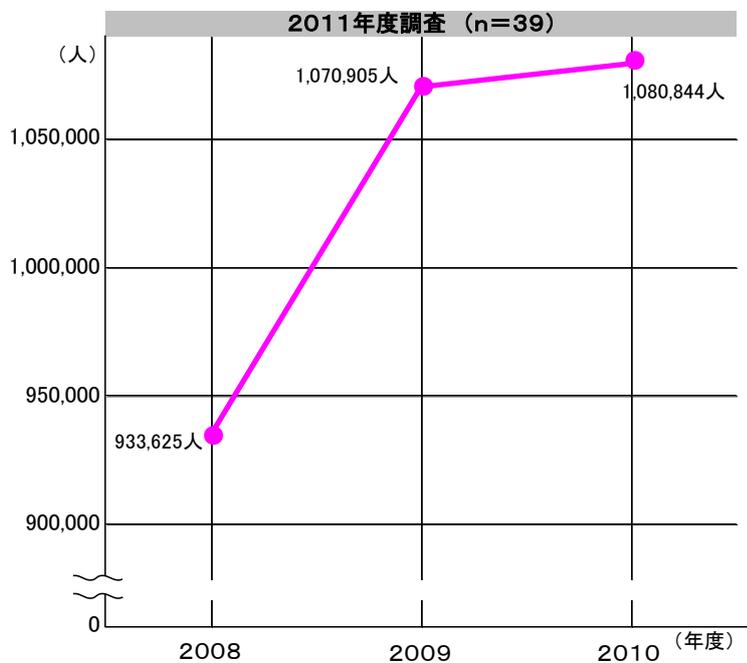
乳がん検診・受診者数の推移



無料クーポン券の導入年度は受診者数が大幅に増加、2010年度も同レベルの受診者数に達したものの、その後、顕著な伸びは見られず、2012年度は減少に転じた。

Ⅲ 無料クーポン導入以降の受診者数の推移 ②

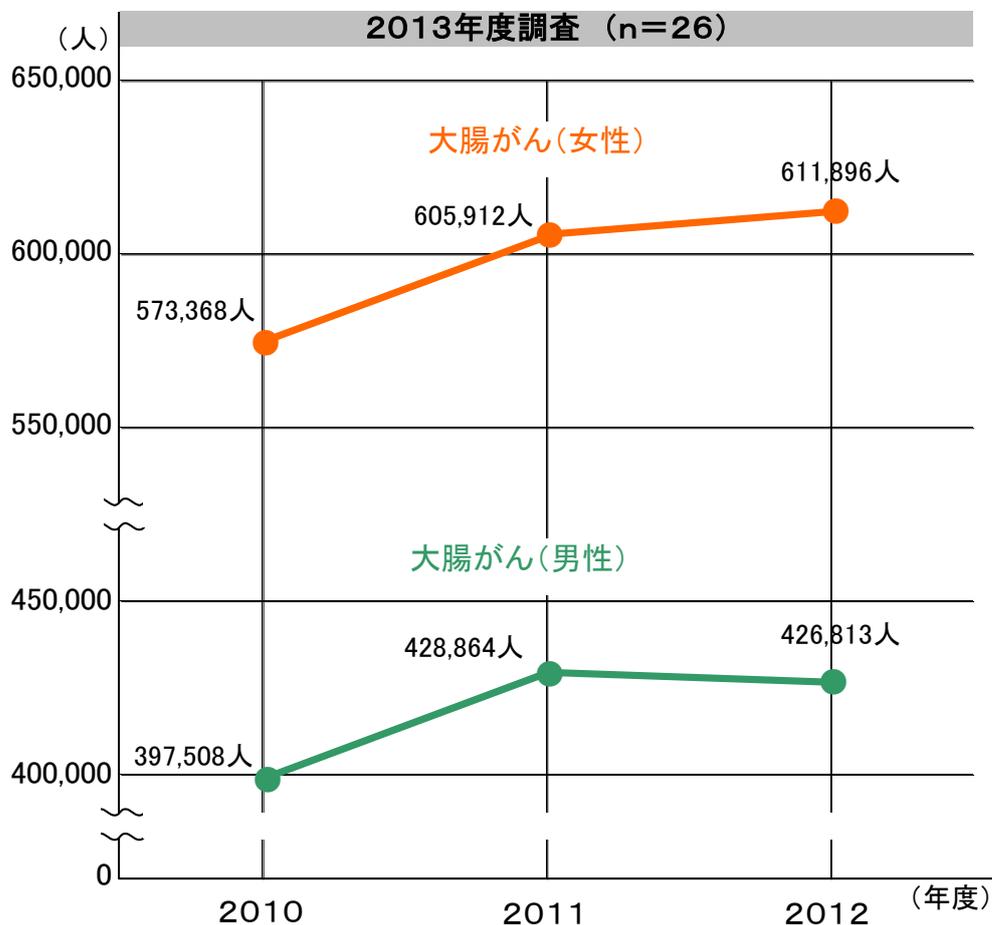
子宮頸がん検診・受診者数の推移



子宮頸がん検診も、乳がん検診同様、無料クーポン券の導入年度は受診者数が大幅に増加、2010年度も微増していたが、2011年度からは減少傾向にある。

Ⅲ 無料クーポン導入以降の受診者数の推移 ③

大腸がん検診・受診者数の推移

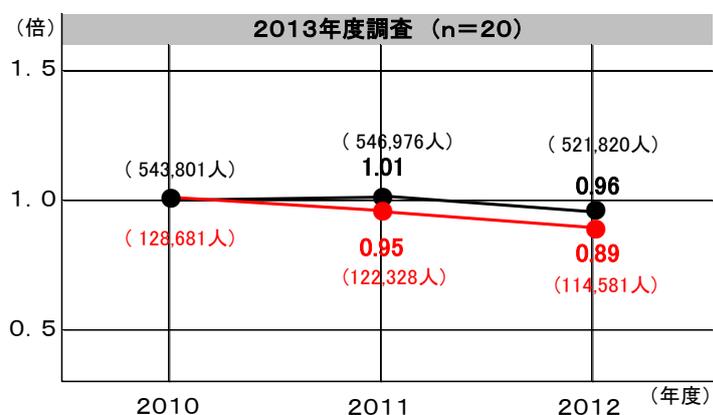


大腸がん検診では、無料クーポン券を導入した2011年度に受診者が増加したが、2年目にあたる2012年度は伸び率も下がり、男性は減少に転じた。

IV 無料クーポン対象年齢の受診者数の推移 ①

乳がん検診・「総受診者数」と「クーポン対象者数」の推移

初年度の受診者数を「1」としたときの「総受診者数」と「クーポン券対象者数」の増加率



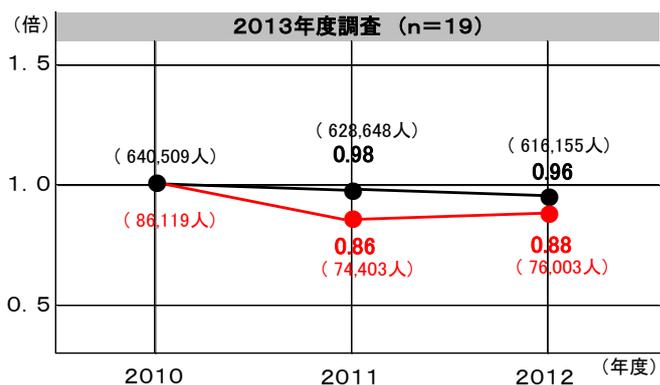
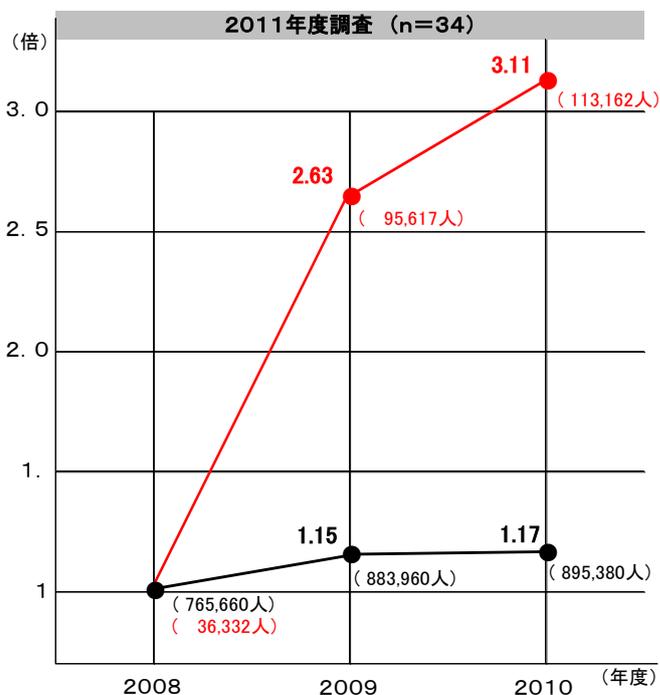
無料クーポン券導入時の2009年度は、対象年齢の伸び率が顕著だったが、2011年度からは若干ながら減少に転じている。

しかも、クーポン対象年齢の方が全体よりも減少幅が大きくなっており、クーポン効果が弱くなっていることがうかがえる。

IV 無料クーポン対象年齢の受診者数の推移 ②

子宮頸がん検診・「総受診者数」と「クーポン対象者数」の推移

初年度の受診者数を「1」としたときの「総受診者数」と「クーポン券対象者数」の増加率

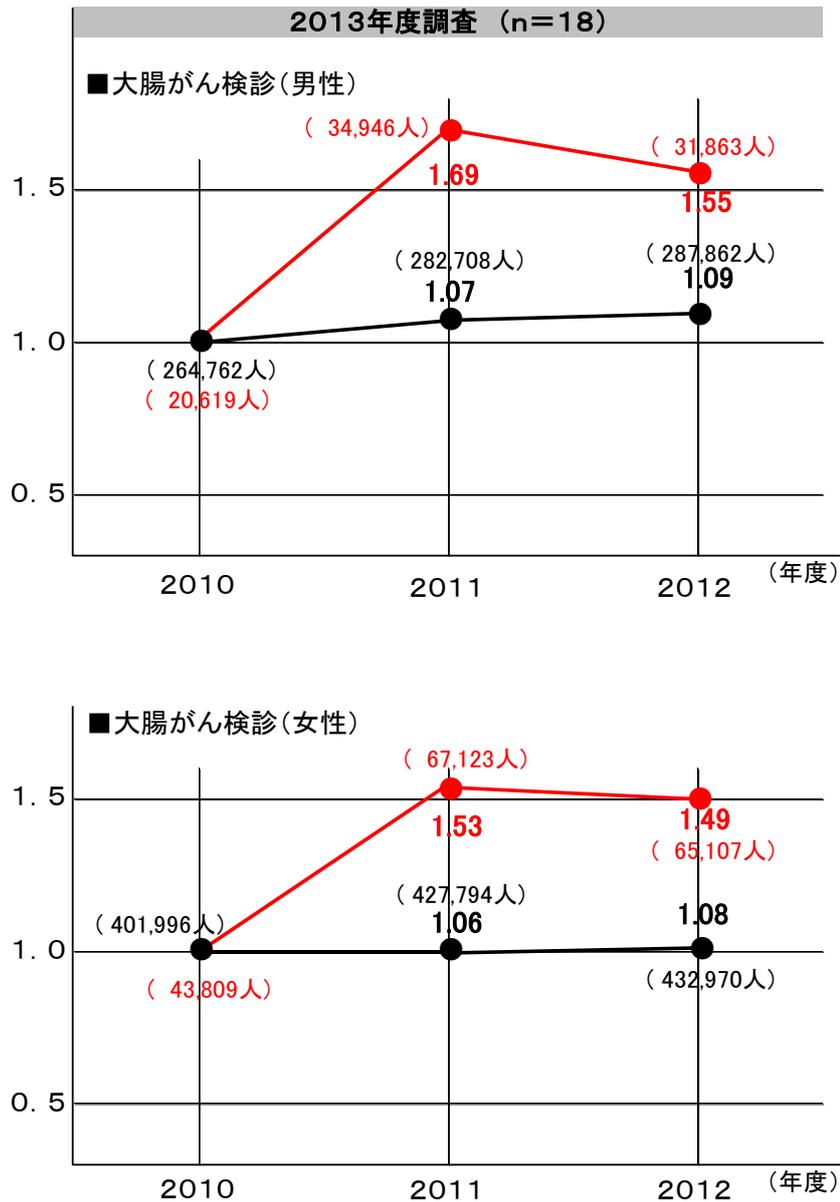


子宮頸がん検診の伸び率は、乳がんよりも顕著で、クーポン導入初年度から2年目にかけては大きく増加した。しかしながら、乳がん検診同様、2011年度から減少に転じ、クーポン対象年齢の方に限定した方が減少幅が大きかった。

IV 無料クーポン対象年齢の受診者数の推移 ③

大腸がん検診・「総受診者数」と「クーポン対象者数」の推移

初年度の受診者数を「1」としたときの「総受診者数」と「クーポン券対象者数」の増加



大腸がん検診は、クーポン券を導入した2011年度は男性・女性とも大きく増加し、クーポン対象年齢の増加幅は顕著だったが、2012年度は総受診者数もほぼ横ばいで、クーポン対象者数は減少に転じた。特に男性は下げ幅が大きい。

V クーポン券と検診手帳に対する評価

□ 無料クーポンの評価できること(3つまで)

項目	回答数	割合
1. 無料だったこと	28	90.3%
2. 個人名で通知(個別勧奨)したこと	15	48.4%
3. 行政の名前で通知したこと	4	12.9%
4. 全国的に話題になりPR効果が高かった	5	16.1%
5. がん検診自体のPRにつながった	7	22.6%
6. 他のがん検診の受診促進につながった	5	16.1%
7. 無料クーポンが定着してきた	9	29.0%
8. 特にない	2	6.5%
9. その他	0	0.0%

□ 無料クーポンの改善点(3つまで)

項目	回答数	割合
1. 職域で受診した人を削除できていなかった	4	12.9%
2. 自治体内の指定医療機関でなければ受診できなかった	3	9.7%
3. 事務対応がスムーズにできなかった	12	38.7%
4. 隔年受診との関連について説明しづらかった	11	35.5%
5. 混み合って予約がスムーズにいかず不便をかけた。	0	0.0%
6. 単年度事業で5年間の継続事業ではなかったこと	4	12.9%
7. 有効期限が年度末と短かった	4	12.9%
8. 無料クーポン券がマンネリ化してきた	7	22.6%
9. 事前の情報不足していたこと	6	19.4%
10. 需要に対応できる検査機器が足りなかった	0	0.0%
11. 検査できる技師が足りなかった	2	6.5%
12. 特にない	2	6.5%
13. その他	5	16.1%

※その他のコメント

- ・施設を持たない検診機関にとって手間がかかり、メリットは感じられない。
- ・職域職員を受診環境整備(会社側の検診受診への理解)
- ・無料検診を実施している自治体がある。対象者を年齢のみであるため必要ない受診者にもクーポンが届いた。(職域だけでない)受診者が継続受診に繋がっていない。有効期限に検討が必要。
- ・クーポン後日回収がうまく行かない。
- ・がん検診台帳整理基準日が4月20日のため、4～5月の検診実施が困難である。

□ 検診手帳の評価できること(3つまで)

項目	回答数	割合
1. 説明資料を読むと検診に行こうという気になる	7	22.6%
2. がんに興味を持つ人が増える	13	41.9%
3. 家庭内で話題になるなど波及効果が期待できる	4	12.9%
4. イラストがあって親しみやすくなっている	6	19.4%
5. わかりやすい	3	9.7%
6. 特にない	9	29.0%
7. その他	0	0.0%

□ 検診手帳の改善点(3つまで)

項目	回答数	割合
1. 似たようなツールが多く目立たなかった	4	12.9%
2. 単なる冊子だと読まれない	10	32.3%
3. 乳がんと子宮頸がん以外のがんについても出してほしい	7	22.6%
4. 手帳が多すぎて混乱を招いている。まとめてほしい。	7	22.6%
5. 厚くて読もうという気にならない	4	12.9%
6. PR不足。検診手帳の存在を知らない人が多かった	5	16.1%
7. 特にない	6	19.4%
8. その他	2	6.5%

※その他のコメント

- ・健康手帳との整合性を考えて発行して頂きたい。
- ・国が示す手帳はカラー原稿となっている。しかし、市町村によっては原本データをそのまま白黒印刷としているため、説明文の朱書き箇所が薄く印刷されている。読みやすさなどの点において効果を半減させているので、原稿どおりカラー印刷以外は認めないよう制限すべきである。

■ 無料クーポンと検診手帳を導入して4年間が経過したが、その効果について(1つ)

項目	回答数	割合
1. 受診率が伸びてきた。このまま継続すればいいと思う。	4	12.9%
2. 受診率は伸びたが、頭打ちの印象がある。新たな活動も必要ではないか。	14	45.2%
3. 今のところ、さほど受診率向上につながっていない。	5	16.1%
4. あまり意味がなかったように思う。	1	3.2%
5. なんともいえない	3	9.7%
6. その他	3	9.7%
7. 無回答(無効回答)	1	3.2%
合計	31	100.0%

※その他のコメント

- ・子宮がん検診や乳がん検診では、受診促進につながっている。頭打ちになっている他の検診種目(胃がん)での実施を希望したい。
- ・乳がん・子宮がんの無料クーポン導入当初は飛躍的に受診率が伸びたが、以後受診率は低下している。大腸がんの無料クーポンは年度途中からの導入であったため受診率の向上に繋がらなかった。
- ・大腸がん無料クーポンは、乳がん無料クーポンほどの受診率向上につながらない傾向にある。

VI 集計結果からの考察

■乳がん、子宮頸がん検診の受診者数は減少傾向

乳がん・子宮頸がん検診に無料クーポン券を導入して5年目を迎えた。これまでの4年間の推移を見てみると、導入初年度は大幅な伸び、その翌年以降も導入初年度と同レベルの受診者数を確保するようになっている。導入前と比較すると、ひとつ上のステージに上がっているが、若干ながらここ1～2年は減少傾向が見られるようになった。

(乳がんが2012年度から、子宮頸がんは2011年度から減少している)

■大腸がん検診も同様の動きに・・

2011年度に無料クーポン券を導入した「大腸がん検診」も、初年度はクーポン対象年齢を中心に大幅に増加したが、2年目となる2012年度はその勢いが弱くなり、男性にいたっては減少に転じている。

乳がん・子宮頸がん同様、「無料クーポン効果」でワンランク上のステージへたどり着いたものの、そこで頭打ちになりつつあるように見受けられる。

■無料クーポン券の効果について

受診者総数(=全体)とクーポン対象者年齢に限定したグループとで、受診者数の推移を比較したところ、クーポン対象者の方がここ1～2年の減少幅が大きかった。

無料クーポン券は、導入時に初回受診者数が2～3倍になるなど、受診者数に大きな変化があったが、2年目以降はその伸びが鈍化、もしくは減少傾向になっている。クーポンで受ける層は一定の割合で存在するものの、各年齢とも、それ以上の伸びは見られていない。

同様のことが、支部担当者の声からも読み取れる。

「クーポン券で評価できること」を尋ねたところ、「無料だったこと」が圧倒的に多くて90.3%、「個人名で通知したこと」(48.4%)、「無料クーポンが定着してきた」(29.0%)と続いていた。ただ、改善点を聞いたところ「無料クーポンがマンネリしてきた」(22.6%)も多かった。担当者によってとらえ方が異なっているものの、「無料クーポン券」が各支部や受診者にとっても身近になっていることは間違いないようだ。しかし、「受診率は伸びたが頭打ちの印象がある」との回答(45.2%)も多く、新たな手法による啓発活動が求められている。

定量的な集計結果から「無料クーポン券の効果」を見るとこういう傾向になるものの、現実的には、受診予約をしようとしたが追加検診の日程が合わなかった・・など、インフラ(受け皿)にかかわる問題が障害となっていたケースも考えられ、この調査だけでは真の効果まで把握することはできない可能性がある。

受診意欲があったのに行けなかった人がどの程度いたのか。どうすれば受診につなげていくことができるのか。初回受診者にフォーカスして「受診のきっかけ」を聴取するなど、次の受診者増に向けた情報収集が必要な時期に来ているのではないだろうか。